

令和7年度岡山県難病相談・支援センター事業委託公募公告

岡山県難病相談・支援センター事業については、公益財団法人岡山県健康づくり財団を相手方とする委託契約手続きを予定しているが、契約の前に、契約予定者以外の者への参加意思確認を行うものである。

応募者がいない場合には、公益財団法人岡山県健康づくり財団と契約手続きを行うこととする。

なお、本事業は、令和7年度岡山県一般会計予算案が岡山県議会で議決されることを条件に実施するものである。

令和7年2月21日

岡山県知事 伊原木 隆太

第1 事業名

岡山県難病相談・支援センター事業（以下「本事業」という。）

第2 事業の目的

地域で生活する難病のある人等に対する相談・支援、地域交流活動の促進及び就労支援などを行う拠点として、本事業を実施し、難病のある人等の療養上、日常生活上の悩みや不安等の解消を図るとともに、様々なニーズに対応したきめ細やかな相談や支援を通じて、地域における支援対策を一層推進することを目的とする。

第3 委託業務の内容

上記の目的を達成するため、下記の業務を行う。

1 職員の配置

(1) 難病相談支援員等の配置

- ① 常勤職員を管理責任者に定めておくこと。
- ② 難病に関する必要な知識・経験等を有し、厚生労働省の実施する特定疾患医療従事者研修を修了した保健師等又はこれに相当すると岡山県知事が認める専任の難病相談支援員を1名以上配置すること。
- ③ 就労に関する必要な知識・経験等を有する就労支援専門員を1名配置すること。

(2) 個人情報の取扱い

職員は、利用者のプライバシーの尊重に万全を期するものとし、正当な理由なくその業務を通じて知り得た個人の情報を漏らしてはならないこと。具体的には、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守すること。

2 業務実施場所

本業務は、岡山県南部健康づくりセンター（岡山市北区平田 408-1）内に整備されている「岡山県難病相談・支援センター」（専有面積 98.0 m²）又はこれと同等の

面積、機能及び利便性を備えた施設を拠点として実施すること。

3 業務内容

(1) 各種相談支援

電話、面談、日常生活用具の展示等により、療養生活、日常生活、各種公的手続等に関する相談、支援及び生活情報（住居、就労、公共サービス等）の提供等を行うこと。

(2) 地域交流会等の(自主)活動に対する支援

レクリエーション、難病のある人等の自主的な活動、地域住民や患者団体との交流等を図るための場の提供、医療関係者を交えた意見交換会やセミナー等の活動支援を行うとともに、地域におけるボランティアの育成に努めること。

(3) 就労支援

連絡会議等を通じて公共職業安定所等就労支援機関、医療機関及び福祉関係機関等との連携を図り、必要な相談・援助、情報提供等を行うとともに、必要に応じ公共職業安定所への同行等の支援を行うこと。

特に、公共職業安定所に配置される難病患者就職サポーターとの連携を密にし、難病のある人の就労促進の強化を図ること。

また、あらゆる機会を捉え、企業側への積極的な周知・啓発を実施すること。

(4) 講演会・研修会の開催

医療従事者等を講師に招いて難病のある人等に対する講演会を開催するとともに、保健・医療・福祉サービスの実施機関等の職員に対する各種研修会を行うこと。

また、地域医療の中核を担う医師等医療従事者を対象に、難病に関する知識の普及その他情報提供を図るための研修会を、県医師会へ委託するなどして実施すること。

(5) その他

特定の疾病の関係者にとどまらず、地域の実情に応じた創意工夫に基づく地域支援対策事業を行うこと。

(6) 令和7年度の特記事項

上記の事業について、特に別紙に掲げる事項に取り組むこと。

4 相談窓口の業務時間及び閉所日

(1) 相談窓口の業務時間

- ・火曜日～土曜日

9：00～12：00、13：00～16：00

(2) 閉所日

- ・日曜日、月曜日、祝日
- ・8月13日～8月15日
- ・12月29日～1月3日
- ・臨時的な閉所日

5 緊急体制の確保

面談等の相談時において相談者等の体調が悪化した場合等、緊急に医療対応の必要が生じた際に適切な対応が可能となる体制が整えられていること。

6 管理規程等の整備

管理責任者は、あらかじめ利用者の守るべき規則等を明示した管理規程等を定めるものとし、利用者への周知徹底を図ること。

管理規程等を整備する際には、必ず次に掲げる事項に関する規定を含めること。

- ・設備、会計に関する帳簿及び利用者に関する記録を整備すること。
- ・本業務に係る経理とその他の経理を明確に区分すること。
- ・その他本業務を実施する上で必要な規定等を定めること。

7 業務実施に当たっての留意事項

- (1) 本業務の実施に当たり利用者の利便性の向上を図るため、必要に応じ、送迎車両を確保するなど、その体制整備に努めること。
- (2) 難病のある人等の意向を踏まえた年間及び月間の事業計画を定め、3の業務を計画的に実施すること。
- (3) 事業年度の終了時は事業の評価を行い、事業運営の継続的な改善に努めること。
- (4) インターネット、電話、ファックス、会議、面談、情報閲覧（日常生活用具等の展示を含む。）等の手段を用いて、難病のある人等が保健・医療・福祉に関する各種情報の取得を円滑に行うことができるよう、支援体制を整備すること。
- (5) 支援等を行った者に関する基礎的事項、支援計画の内容、実施状況及びその留意事項等を記録し、管理すること。
- (6) (5)の記録を有効に活用し、保健所、医療機関、他の難病相談支援センター及び公共職業安定所等関係機関と連携を図ることにより、難病のある人等が継続的な支援を受けられるよう努めること。
- (7) 難病のある人等が本事業に基づく支援等を公平に受けることができるよう留意し、事業の実施状況に注意を払うこと。
- (8) 患者や家族間のつながりの構築等の観点から、自主的な活動についても支援・援助すること。
- (9) 本事業の効果促進を図るため、地域におけるボランティアの育成に努めること。
- (10) 県が本事業の一環として別途実施するピア・サポート事業と一体的な相談支援が行えるよう、相互に連携・協力を図ること。
- (11) 岡山市の区域は本事業の直接の対象から除かれるが、県医薬安全課と十分な連絡調整を行いながら、患者からの問合せ等に適切に対応すること。

第4 その他

本事業の実施に当たり疑義が生じた場合は、委託者及び受託者双方の協議により処理すること。

第5 委託期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで（契約日：令和7年4月1日）

第6 契約限度額

11,548,426円（消費税及び地方消費税額を含む。）

第7 応募要件

- 1 地方自治法施行令第167条の4の規定に該当しない者であること。

- 2 県との契約に関し、入札参加停止又は指名停止の措置を受けていないこと。
- 3 業務を円滑に遂行するために必要な経営基盤を有していること。
- 4 難病のある人等の支援について専門的に行っており、医療・保健・福祉・雇用等関係機関との連携が図られ、緊急時にも対応できる体制が整備されていること。

第8 公募期間

令和7年2月21日（金）から同年3月14日（金）まで

第9 応募方法

1 提出書類

- (1) 岡山県難病相談・支援センター事業委託公募申請書 様式第1号
- (2) 岡山県難病相談・支援センター事業計画書 様式第2号
- (3) 見積書及び積算内訳 任意様式

2 応募書類の入手方法

令和7年2月21日（金）から同年3月14日（金）までの土曜日、日曜日、祝日を除く午前9時から午前11時30分まで及び午後1時から午後5時までに3の提出場所において受け取ること。

3 提出場所

〒700-8570 岡山市北区内山下二丁目4番6号
岡山県保健医療部医薬安全課 特定保健対策班（岡山県庁5階）
TEL (086) 226-7342 FAX (086) 224-2133

4 提出方法

1の提出書類を3の提出場所に持参し提出すること。

5 提出期限

令和7年3月10日（月）から同月14日（金）までの午前9時から午前11時30分まで及び午後1時から午後5時まで

第10 審査手続・審査基準

- 1 公募申請書類が提出された場合は、別途設置する審査委員会において審査する。
- 2 審査は、提出書類及び添付資料により行うが、必要に応じて別途ヒアリングの実施や追加資料の提出を求める場合がある。
- 3 審査項目及び配点は別表のとおりであり、100点満点で点数化し、上位一者を委託契約予定者とする。

第11 結果の通知方法

第10の審査結果は文書で通知する。

第12 その他

- 1 応募にかかる経費は、すべて応募者の負担とする。
- 2 応募者の名称、代表者、所在地等を公表することがある。

- 3 提出書類について虚偽の記載があった場合は、失格とする。
- 4 提出書類は、返却しない。
- 5 提出書類等は、情報公開請求により第三者に開示することがある。

【別表】

審 査 項 目	配 点
難病相談支援員等の配置について <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な条件を満足していること。 ・ 難病相談支援員の知識・経験・資格等が優れていること。 ・ 就労支援専門員の知識・経験等が優れていること。 	20点
事業計画について <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な事業計画の内容が優れていること。 	20点
事業実施体制について <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療・保健・福祉・就労等の関係機関との連絡調整機能が優れていること。 ・ 患者支援の観点において、円滑に事業を実施するための連携体制が優れていること。 	15点
経営基盤について <ul style="list-style-type: none"> ・ 収支報告書等の内容が優れていること。 	15点
緊急時の対応について <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業実施時における緊急対応の体制が優れていること。 	15点
事業の経済性について <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業実施に要する経費の経済性（経費積算の合理性、費用対効果等）が優れていること。 	15点
合 計	100点

岡山県難病相談・支援センター事業 令和7年度の特記事項

1 「各種相談支援」に関する事項

- 支援に資する情報の収集等
 - ・ 幅広く、効果的な支援の提供や支援スキルの向上のため、難病に関する知識その他支援に資する情報を収集・蓄積し、難病相談・支援センター内での共有を図ること。
 - ・ 特に、難病のある人等が利用できる福祉制度等について、市町村の施策も含め、分かりやすい資料に取りまとめ、センター利用者をはじめ難病のある人等に可能な限り公表・提供すること。また、一定期間ごとに情報の更新を行うこと。

2 「就労支援」に関する事項

- 企業側への働きかけの強化
 - ・ 企業側の難病への理解が進むよう、関係機関の協力も得ながら、効果的な取組を実施すること。
- 啓発資材の活用等
 - ・ 既存のパンフレット等を有効に活用するとともに、それらの改訂や新たな啓発資材の作成・配布に取り組むこと。

3 その他事業全般に関する事項

- 利用者の意見等の把握
 - ・ 利用者アンケート等を活用して相談者や行事参加者の声を常に把握し、事業の充実強化や運営改善につなげること。
- 職員の研鑽
 - ・ 既存の研修会への参加など年間を通じた職員研修の計画を立て、積極的な受講を推進することにより、職員の一層の資質向上を図ること。特に、カウンセリング技術の向上に資する研修や福祉制度全般の情報・知識の習得に係る研修の受講に努めること。
- 患者団体への支援
 - ・ 患者団体の行事への参加等を通じて患者・家族と接する機会の拡大に努め、より効果的な事業の運営につなげること。

個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1 乙は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による業務の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）等関係法令の規定に従い個人情報の取扱いを適正に行わなければならない。

(責任体制の整備)

第2 乙は、個人情報の安全管理について、内部における責任体制を構築し、その体制を維持しなければならない。

(作業責任者等の届出)

第3 乙は、この契約による個人情報の取扱いに係る作業責任者、作業従事者及び作業場所を定め、書面により甲に報告しなければならない。

2 乙は、作業責任者、作業従事者又は作業場所を変更する場合は、あらかじめ甲に報告しなければならない。

(秘密の保持)

第4 乙は、この契約による業務に関して知り得た個人情報をみだりに他に漏らしてはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

2 乙は、この契約による業務に従事している者に対して、在職中及び退職後において、この契約による業務に関して知り得た個人情報をみだりに他人に知らせてはならないこと、又は不当な目的に使用してはならないことその他個人情報の保護に関し必要な事項を周知するものとする。

(教育の実施)

第5 乙は、個人情報の保護、情報セキュリティに対する意識その他この契約による業務のうち個人情報を取り扱うもの（以下「個人情報取扱業務」という。）を適切に実施するために必要な事項に関する教育及び研修を作業責任者及び作業従事者全員に対して実施しなければならない。

(収集の制限)

第6 乙は、この契約による業務を行うために個人情報を収集するときは、必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(個人情報の適正管理)

第7 乙は、この契約による業務に関して知り得た個人情報の漏えい、滅失又は毀損の防止その他の当該個人情報の適正な管理のため、次に定めるところにより、その管理を行わなければならない。

- 一 施錠が可能な保管庫又は施錠若しくは入退室する者の管理が可能な保管室で厳重に当該個人情報を保管すること。
- 二 甲が指定した場所へ持ち出す場合を除き、当該個人情報が記録された資料等を作業場所から持ち出さないこと。
- 三 当該個人情報を電子データで持ち出す場合は、電子データの暗号化処理又はこれと同等以上の保護措置を施すこと。
- 四 甲の指示又は承諾がある場合を除き、甲から提供された個人情報が記録された資料等を複製し、又は複写しないこと。
- 五 当該個人情報を電子データで保管する場合は、当該電子データが記録された媒体及びそのバックアップの保管状況並びに記録された電子データの正確性について、定期的に点検すること。

- 六 当該個人情報を管理するための台帳を整備し、当該個人情報の利用者、保管場所その他の当該個人情報の取扱いに関する状況を当該台帳に記録すること。
- 七 作業場所に、私用のパソコン、記録媒体その他私用の物を持ち込ませないこと。
- 八 当該個人情報を利用する作業を行うパソコンに、当該個人情報の漏えいにつながると考えられる業務に関係のないソフトウェアをインストールしないこと。

(利用及び提供の制限)

- 第8 乙は、甲の指示又は承認がある場合を除き、この契約による業務に関して知り得た個人情報をこの契約の目的以外の目的に利用し、又は第三者に提供してはならない。
- 2 乙は、甲乙間の個人情報の受渡しに関しては、甲が指定した手段、日時及び場所で行い、甲から個人情報を提供された場合は、甲に当該個人情報の預り証を提出しなければならない。

(再委託)

- 第9 乙は、甲の承認がある場合を除き、個人情報取扱業務を第三者に再委託してはならない。
- 2 乙は、個人情報取扱業務の一部をやむを得ず再委託する必要がある場合は、再委託先の名称、再委託する理由、再委託して処理する内容、再委託先において取り扱う個人情報、再委託先における個人情報の取扱いの安全性及び信頼性を確保する対策並びに再委託先に対する管理及び監督の方法を明確にした上で、あらかじめ書面により再委託する旨を甲に申請し、その承認を得なければならない。
- 3 前項の規定により個人情報取扱業務の一部を再委託する場合は、乙は、再委託先にこの契約に基づく一切の義務を遵守させるとともに、甲に対して、再委託先の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。
- 4 乙は、再委託先との契約において、甲及び乙の再委託先に対する管理及び監督の方法及び方法を具体的に定めなければならない。
- 5 乙は、再委託先に対して、再委託した個人情報取扱業務の実施状況を管理し、及び監督するとともに、甲の求めに応じて、管理及び監督の状況を甲に対して適宜報告しなければならない。

(派遣労働者等の利用時の措置)

- 第10 乙は、個人情報取扱業務を派遣労働者、契約社員その他の正社員以外の労働者に行わせる場合は、当該労働者に個人情報取扱業務を適正に実施するために必要な義務を遵守させなければならない。
- 2 前項に規定する場合において、乙は、甲に対して、当該労働者の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。

(個人情報の返還又は廃棄)

- 第11 乙は、この契約による業務を行うために甲から提供を受け、又は自らが収集し、若しくは作成した個人情報及び当該個人情報が記録された資料等は、業務完了後、甲の指示に基づいて甲に返還し、廃棄し、又は個人情報を消去しなければならない。
- 2 乙は、第1項の規定による資料等の廃棄又は個人情報の消去に際し、甲から立会いを求められた場合は、これに応じなければならない。
- 3 乙は、第1項の規定により資料等を廃棄する場合は、当該資料等を物理的に破壊する等記録された個人情報を判読し、復元することができないように確実な方法で廃棄しなければならない。
- 4 乙は、パソコン等に記録された第1項の個人情報を消去する場合は、データ消去用ソフトウェアを使用し、通常の方法では当該個人情報を判読し、復元することができないように確実に消去しなければならない。

(点検の実施)

- 第12 乙は、甲から個人情報の取扱いの状況について報告を求められた場合は、個人情報の取扱いに関する点検を実施し、直ちに甲に報告しなければならない。

(監査及び検査)

第13 甲は、個人情報取扱業務について、第1から第14までの規定に基づき必要な措置が講じられているかどうかを検証し、及び確認するため、乙及び再委託先に対して、監査又は検査を行うことができる。

2 甲は、前項に規定する目的を達するため、乙に対して必要な情報の提供を求め、又は個人情報取扱業務の実施に関して必要な指示をすることができるものとし、乙は、これに従わなければならない。

(事故時の対応)

第14 乙は、この契約による業務に関して個人情報の漏えい等の事故が発生した場合は、当該事故の発生に係る帰責の有無にかかわらず、直ちに甲に対して、当該事故に関わる個人情報の内容及び件数並びに当該事故の発生場所及び発生状況を書面により報告し、甲の指示に従わなければならない。

2 甲は、この契約による業務に関し個人情報の漏えい等の事故が発生した場合は、必要に応じて当該事故に関する情報を公表することができる。

(契約解除)

第15 甲は、乙が第1から第14までに定める義務を履行しない場合は、この契約に関連する委託業務の全部又は一部を解除することができる。

2 乙は、前項の規定による解除により損害を受けた場合においても、甲に対して、その損害の賠償を請求することはできないものとする。

(損害賠償)

第16 乙の故意又は過失の有無を問わず、乙がこの契約の内容に違反し、又は怠ったことにより、甲に対する損害を発生させた場合は、乙は、甲に対して、その損害を賠償しなければならない。